

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	14-127	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol consumption and site-specific cancer risk: a comprehensive dose-response meta-analysis. 飲酒と臓器特異的癌リスク：用量反応性メタ解析		
<b>執筆者</b>		
Bagnardi V1, Rota M2, Botteri E, et al.		
<b>掲載誌</b>		
Br J Cancer. 2015 Feb 3;112(3):580-93. doi: 10.1038/bjc.2014.579.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、癌、用量反応性、メタ解析		25422909
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> アルコールは口腔癌、咽頭癌、食道癌、結腸癌、肝臓癌、喉頭癌および乳癌などのリスク因子とされているが、その他の癌との関連については議論の解決をみていない。本研究ではアルコール摂取と各種癌リスクについてメタ解析を実施した。		
<b>方法：</b> 癌 23 種、486,538 例の発症例を含む 572 研究を対象とした。用量反応性メタ回帰モデルを使用した。		
<b>結果：</b> 非飲酒者を基準とした多量飲酒者の癌発症リスク比は、口腔・咽頭癌で 5.13、食道上皮癌で 4.95、結腸癌で 1.44、喉頭癌で 2.65、および乳癌で 1.61 と有意に高値であった。これらの癌と飲酒量との関連には明瞭な用量依存性がみられた。また、多量飲酒者は胃癌、肝臓癌、胆のう癌、膵臓癌、および肺癌リスクも有意に高値であった。黒色種や前立腺癌についても、有意ではないが同様の傾向がみとめられた。一方、飲酒量とホジキン・非ホジキンリンパ腫とに負の関連がみられた。		
<b>結論：</b> アルコールは口腔癌、咽頭癌、食道癌、結腸癌、肝臓癌、喉頭癌および乳癌の発症リスクを増大させることが用量反応性メタ回帰分析により示された。加えて、膵臓癌、前立腺癌および黒色種についてもエビデンスが集積しつつあることが判明した。		